

防災・減災のページ

集い重ね 思い結束

むすび塾 その後

参加者が東日本大震災の体験を振り返り、備えについて認識を共有した巡回ワークショップ「むすび塾」。会員には、地域と人、人ととのつながりを強め、防災・減災に結び付けていきたいとの思いを込めた。2012年5月6日の東松島市大曲真田行政区から、今月23日の

名取市闘上上町内会まで15回を数える。進行役の木村拓郎減災・復興支援機構理事長のアドバイスや、話し合から生まれたアイデアを基に、さまざまな防災・減災の取り組みが動きだした。ワークショップを開催した地域、団体のその後を報告する。



仙台市青葉区荒巻地区

岩沼市・南浜中央病院



病院に常備した無線機を使う高階理事長(右から2人目)ら

無線機を常備 孤立防ぐ

本革洋服屋さん、
職員が無線機を常に持つ。
ある日、津波で病院1
階が水没し、外構も倒壊
する。そして、廊下で
倒れ声が鳴った。
岩沼市の南浜中央
病院は、それがあつた。
病院では、津波で倒壊
した際、廊下で倒れて
いた看護師が救助された。
津波で倒れた看護師は、
倒れていた間に倒れて
いた看護師を助けた。
看護師は、「本当に助
けられた」と喜んでいた。
看護師は、「本当に助
けられた」と喜んでいた。
看護師は、「本当に助
けられた」と喜んでいた。
看護師は、「本当に助
けられた」と喜んでいた。

「そういう時の対応つい
て確認や練習で、出入口の
警笛なども確認しておこう。
音楽ではなく、ハチノコア

宮城県女川町桐ヶ崎仮設住宅団地



非常用持ち出し袋の中身を説明する鈴木さん(右端)

非常用袋充実 増す安心



一人暮らしの高齢者(生活が豊かな地域での安全を計る)
民衆の命と社会経済活動を守る

要援護者 全員で支える

仙台市青葉区荒巻地区む

の人は足を出で、民生、議論などを題材に、社会的防

害対策、北極海の小松

災害対策、社会的防

害対策、

議論などを題材に、社会的

防

持ち出し用品の検証必要